

# 大名みえ子です

ご相談はお気軽にお寄せください

東海村村松 2401-2  
oona\_toukai@yahoo.co.jp  
電話・FAX 029-284-0761

## 侵略戦争を正当化する靖国神社参拝は許されない

小泉首相は、8月15日、終戦記念日に靖国神社への参拝を強行しました。総理大臣の靖国参拝の問題について記してみます。

小泉首相は、“2度と戦争をおこしてはならない”という気持ちで靖国神社に参拝したといいますが、これほど世界の世論に反することはありません。そもそも靖国神社は、戦没者の純粋な追悼の場所ではありません。「日本の戦争は、アジア解放の戦争であり、正しかった」といって過去の侵略戦争を「正しい戦争」と宣伝するセンターになっています。神社内にある遊就館は侵略戦争をほめたたえる展示物が多数並べてある軍事博物館です。こうした神社を、国政の最高責任者が参拝することは、過去の侵略戦争は正しかったという神社の歴史観を、政府が認めることにほかなりません。それは、侵略戦争の反省の上に築かれた今日の国際秩序に背を向けるものです。だからこそ、中国や韓国だけでなく、欧米諸国からも批判の声が上がっているのです。

小泉首相は、靖国参拝は、自分が「公約」したことだからと居直っています。しかし、この「公約」とは国民への公約ではなく、「侵略戦争は正しかった」という靖国神社の考えにたつ一部の人々への「公約」にすぎません。日本の国益を犠牲にしてはばからない首相の態度は、国政の最高責任者として許されません。

小泉首相の無責任な立場を正すことが出来なかった自民党は、政権党としての資質を厳しく問われています。だれが次期首相にな

ろうとも日本の外交のこの異常な誤りをすみやかに是正し、靖国参拝を中止することが求められています。

小泉首相は「2度と戦争をおこしてはいけない」などといっていますが、実際にやっていることは、まったく正反対なことばかりではないでしょうか。自民党、公明党は、憲法9条を改悪して、日本を海外で戦争をする国につくりかえる動きを強めています。教育基本法を改定し、子どもたちに愛国心を強制し、教育内容にまで国が介入しようとしています。これでは、戦前への逆戻りではないでしょうか。日本が引き起こした、アジア・太平洋戦争では、2千万人以上のアジアの人びとと、3百万人以上の日本国民の尊い命を奪いました。子どもたちに“お国のためには命をすてよ”と教えこみ、若者たちを侵略戦争にかりたてたのです。この反省にたって、“2度と戦争はしない世界に、”と誓ったのが日本国憲法であり、憲法の理念を大切に作る人間を育てようというのが教育基本法です。

最後に、日本共産党は、戦前から、「侵略戦争反対」を貫いてきた政党として、侵略戦争を正当化するあらゆるくわだてに反対をします。

いま、世界の流れは、武力には武力をという時代から、徹底した外交努力や話し合いで平和の国際秩序をつくろうという方向に大きく変化しています。いまこそ、憲法や教育基本法の理念が生かされるよう力をあわせるときではないでしょうか。

## 演劇「THE WINDS OF GOD」のご紹介

8月13日付「しんぶん赤旗」日曜版で、紹介されたのをご存知でしょうか。東海文化センターで、東京の劇団「シアター青芸」がこの題材をもとに上演している同題名の演劇が、10月1日(日)午後2時から公演予定となっています。チケットも販売中です。命の尊さ、平和であることの大切さ、と一緒に考えるためにぜひ鑑賞してみませんか。

特攻隊を描いた一つの舞台が、1988年から国内外で上演されてきました。タイトルは「THE WINDS OF GOD」。今回、世界公開を視野に入れた映画版として、全編英語脚本で製作され26日から公開されます。監督・脚本・主演の今井雅之さんの平和への思いが伝わってくる作品です。 寺田忠生記者



「THE WINDS OF GOD」の一場面

### 映画「THE WINDS OF GOD」

監督・主演 **今井 雅之**さん



撮影・後藤淳

\*東京・シネ・リーパル池袋ほか全国順次公開予定。また同作品の舞台全国ツアーも30カ所まで11月まで公開中。☎03(3760)7363エルカンパニー

## 特攻隊の真実 若者に

「若い人に、まず興味をもってもらいたい。戦争とはなんなのか、平和とはなんなのか。憲法9条はなぜあるのか。映画はたしかに娯楽かもしれないけれど、ひとりでも興味を持ってもらえたら、僕は外務省や文部省よりも、いいことをしたと思ってるんですよ」

あふれる思いを穏やかな口調で語る今井さん。

物期は、現代のニューヨークで、コメディアンのおふたりの物語。

たりのアメリカ人が文通事故にあってころから始まり5年8月の日本にタイムスリップし、しかも日本人の特攻隊員に生まれ変わっていったという設定です。

口説くふたりが見た現実には、戦争という大義の前に命を差し出すことを余儀なくされた若者たちの姿でした。

「突撃の前日、隊舎の廊下でみんなの手を編み合せて泣いたという人もいました。そんな状況でも、一生懸命生きようとしていた。その姿を伝えたいと思いました」

と今井は、鎌倉での取材のときの光景は、いまでも忘れられません。特攻隊の攻撃で足が不自由になった元アメリカ軍人とともに取材に行くこと、お互いに涙を流しながら抱き合ったというのです。

「殺し合っていたもの同士なのに、会って話をしたらお互いに人間だったんですね。人間にいちばん必要なのは、戦争でもミサイルでも戦艦機でもない。コミュニケーションです。コミュニケーションが切れたときに、集団対集団、武力対武力になってしまうと思いませんか」

出演者のほとんどは日本人俳優です。今井さん自身もとり、千原真一さん、渡辺裕之さんなどの全編英語による演技も見ものです。

「戦争というのは、自然現象で起るものではなく、人間の心から生まれるものなんです。そこを問いただしていかないと大切じゃないでしょうか。なぜ、小栗さんは靖国に参拝するのか、なぜ憲法9条があるのか、考える一つのきっかけになればうれしく思いますね」

しんぶん赤旗 日刊紙月2900円  
日曜版月 800円

\*ご家族みんなで楽しみ、社会の動きがよくわかります。ぜひご購入ください。

バックナンバーは、日本共産党茨城北部地区委員会のホームページでお読みいただけます。

<http://www.jcp-net.jp/ibahoku/toukai/oona/>